

産科医療補償制度 第91回原因分析委員会 議事要旨

日時：2019年5月22日（水） 17時00分～19時15分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、北田淳子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、豊田郁子、
前田津紀夫、馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況について

○2019年4月末時点で累計2,313件の原因分析報告書が承認されたことや、報告書作成の迅速化・効率化の取組みにより2019年3月末時点の報告書の未送付件数が372件にまで減少し、2019年中には報告書の作成期間を所期の目標である概ね1年に短縮できる見込みとなったこと等が報告された。

2) 原因分析報告書全文版（マスキング版）の開示対応状況について

○2015年11月の開示方法の変更以降、2019年4月末までに、8件の原因分析報告書全文版（マスキング版）の利用申請があり、延べ989事例の報告書が開示されたことが報告された。

3) 原因分析報告書要約版の公表再開の状況について

○保護者や分娩機関等に対し原因分析報告書要約版公表についての同意・不同意の意思確認を行い、不同意の意思表示があった場合を除き本制度ホームページに掲載する方針のもと、2019年1月より要約版の公表を再開し、順次、本制度のホームページに掲載していることが報告された。

4) 部会審議における確認事項等

○原因分析報告書上の原因の記載や医学的評価のあり方等に関して、原因分析の質および均質性を維持するために、原因分析委員会としての方針を整理した方がよいと提起された事項について考え方を整理した。

5) 原因分析報告書の見直しについて

○前回の原因分析委員会からの継続議題として、原因分析報告書の「臨床経過に関する医学的評価」における評価レベルの大括り化および表現の見直しについて審議した。

○また、前回の原因分析委員会で「事例の概要」の記載方法を表形式にすることが了承されたが、その場合の原因分析報告書のサンプルが提示された。

6) 「別紙(要望書)」対応について

- 「別紙(要望書)」対応^(※1)について、2019年4月末までに85の分娩機関に対し実施したこと、改善要望を行った項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が一番多かったこと等が報告された。
- 「別紙(要望書)」対応は、同一の項目において厳しい医学的評価が繰り返されているかどうかで判断されるが、何をもって「同一の項目」とするのかについて考え方を整理した。

(※1) 同一分娩機関において複数事案目の事例が発生し、原因分析でも、これまでと同様の指摘が行われ、改善がみられない、または、同じような事例の発生が繰り返されるおそれがあると原因分析委員会が判断した場合、該当の分娩機関に対し「別紙(要望書)」を送付し、改善取組みとその報告を求めている。

以上